



マンガで知ろう！ 参加支援

参加のキッカケはあちこちに！
マンガで学ぶ、
つながりづくりの
ヒント



はじめに

本会では、平成26年に地域あんしん支援員設置事業、令和2年にひきこもり相談窓口運営事業・よりそい支援員設置事業を京都市より受託し、生きづらさを抱えた方や社会参加が難しい方を包括的に支援していけるように、ご本人やご家族の思いに丁寧に寄り添いながら、地域や関係機関との連携のもとで、社会とつながるきっかけづくりを目指した支援を行っています。

本冊子は、地域あんしん支援員及びよりそい支援員が関わった事例を、マンガやイラストを使ってわかりやすく説明しています。参加支援の理解促進にご活用いただけますと幸いです。

事業の説明

その人らしく地域で暮らせるお手伝い

地域あんしん支援員 (以下、あんしん支援員と記載)

いわゆる社会的孤立等の状態にあり、福祉的な支援が必要でありながら既存制度や地域だけでは対応が困難な方に対し、ご本人の思いを丁寧に受けとめ、人や地域とのゆるやかなつながりを取り戻しつつ福祉的支援に結びつけられるよう、行政等の関係機関や地域との連携のもと、ご本人やご家族に寄り添った支援を行います。



本人と一緒に考え、寄り添う

よりそい支援員

行政等の関係機関と連携し、ひきこもっている方やそのご家族の思いに丁寧に寄り添い、マラソン走者の伴走をするように、ご本人のペースを大切にしながら支援をしています。外出が困難な方にはよりそい支援員が訪問などを行いながら、継続した関わりを通してご本人の思いをお聴きします。また、ご本人の希望の実現に向けて一緒に考え、一緒に前進します。



目次

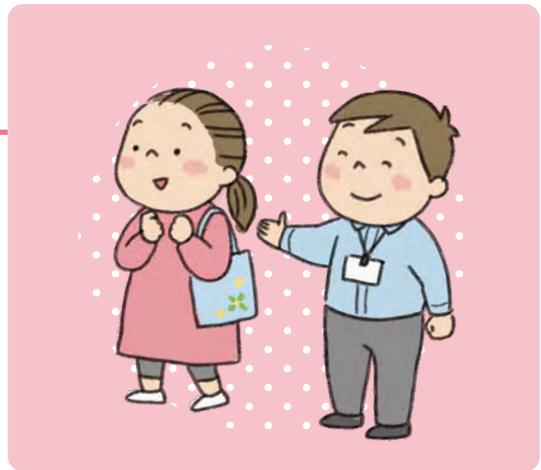


いろいろな人の
「〇〇したい」で広がる
参加の場

P.3

「つながるきっかけ」から
生まれる
参加のカタチ！

P.5



「好き」や「得意」が
“出番”をつくる

P.7



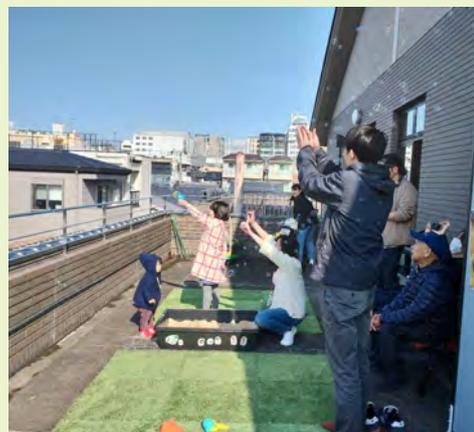
“居場所”につながる
「楽しい」や
「うれしい」

P.9



いろいろな人の「〇〇したい」参加の場で広がる

地域の人たちの「楽しいことしたい!」、「ほっこりしたい」、「誰かの役に立ちたい」…いろんな思いが重なり、多様な人々が集える居場所を創っています。ガーデニングを軸に生まれ、派生したゆるやかなつながりは誰かの笑顔や活力になっています。



よりそい支援員によるAさんへの支援

長年自宅にこもりがちだったAさん。よりそい支援員と面談を重ねる中で、「外出できる場所を増やしたい」、「やりたいことを見つけたい」と意欲が少しずつ湧いてきました。初めての場所への参加に、一歩踏み出せずにはいましたが、よりそい支援員の「地域のガーデニングを一緒にやりませんか」という提案から、活動に参加することができました。

緊張しながらも、よりそい支援員やボランティアの人と一緒に最後まで作業することができ、達成感を得ることができました。

ガーデニングボランティアと一緒に！ 花壇の苗植え



よりそい支援員によるBさんへの支援

はじめは緊張していたBさん。よりそい支援員と一緒に地域の活動に何度も参加するうちに顔なじみの方もできて、一人でも参加できるようになりました。

その後、居心地の良いこの場所で自分も役割を持って関わりたいと思うようになり、今ではスタッフとして活動を支えるようになりました。

子育て団体と遊びを通して楽しむ！ 種だんご作り



あんしん支援員によるCさんへの支援

生活のしづらさを抱え、家が物であふれた状態だったCさん。あんしん支援員と家の整理をしていたところ、ハーブの本があり、Cさんが以前に勉強していたことがわかりました。「ハーブの育て方を地域の人に教えてもらえませんか」とお誘いしたところ、最初は「行ってみたいけど、勇気がでない」と不安を口にしましたが、ガーデニングの様子や雰囲気やCさんに伝えると、「あんしん支援員と一緒になら」と参加につながりました。

活動の中で多様な人と交流するうちに、表情も穏やかになり、前向きな発言が増えてきました。

育てたハーブでほっこり！ 参加者で楽しむお茶会

このハーブティーには、
リラックス効果があるんです。

あんしん対象者
Cさん

ハーブのこと詳しいのね。
いろいろ教えてくれて
嬉しいわ。

ガーデニング
ボランティア



あんしん
支援員

企業の社会貢献で応援！ 花苗の寄付活動

私もハーブティーを
飲みながらみなさんと
交流したいです！

苗の寄付から
こんなにたくさんの方と
つながれて嬉しいなあ。



参加者(企業)

育てたハーブを障害者施設でも活用！

ハーブのおすそわけ

いただいたハーブから
クッキーを作ってみました。
みなさんで
試食してください！



障害者施設
職員



ここがポイント

①「福祉」の枠にとらわれない コラボレーション！

「支援」という枠にとらわれず、「ガーデニング」、「泥遊び」、「ハーブ」、「クッキー」などいろんなキーワードが増えたことで、この場に人が集うきっかけも増えていきます。

②参加のきっかけはなんでもOK！

Bさん、Cさんは今では活動スタッフに。参加者のサポートをしたり、ハーブの先生になっています。地域の企業も苗の寄付からはじまり、一緒に楽しむメンバーに。障害者施設の活躍の機会や地域づくりにもつながっています。

「つながるきっかけ」から生まれる参加のカタチ！

感染症の流行に伴って、障害者施設の授産製品を販売できる機会が少なくなり、利用者の工賃や働く意欲が低下しているとの声を聞きます。でも、地域にはたくさんの社会資源が実はあるんです！新たな場所とつながることで色々な可能性が広がるかも…!?

こんな
困りごと
ありませんか？

お菓子や小物など授産製品を販売できる機会が減っているなあ

外出してみたいけど一人だと不安で勇気が出ないわ

障害者施設職員



あんしん対象者Dさん



参加者の声



お寺の住職

障がいについて理解が深まりました。参加者にも好評で嬉しい限りです。またやりましょう！



障害者施設職員

販売するだけではなく、地域の方とコミュニケーションを取れたのが良かった。私たちの活動を知ってもらえて嬉しかったです。



あんしん対象者 Dさん

美味しそうなお菓子が沢山並べられていて楽しかった。同じようなイベントがあればまた声をかけてほしい。

あんしん支援員によるDさんへの支援

関わり始めた当初のDさんは、学生時代のいじめが原因で社会とのつながりが少なく、人を信じられない状態でした。そこで、あんしん支援員が月1回の訪問から始め、慣れてきたタイミングで月2回、週1回と訪問頻度を増やし、Dさんの心に寄り添ってきました。

Dさんのペースに合わせた丁寧なコミュニケーションで興味関心を把握したことが参加につながったと思います。



その他にも

「つながるきっかけ」から生まれる 様々な 参加のカタチ



藤袴



高齢者の介護予防や交流を目的に、特産品の藤袴を利用した匂い袋づくりを企画しました。地域で藤袴を準備し、袋縫製を障害者施設へ依頼することで、障がいのある方の社会参加の機会の提供にもつながりました。

作成した匂い袋は、当日参加できなかった高齢者の方へお届けする訪問活動にも活かし、参加できなくてもつながることのできる新たな「参加のカタチ」も生まれました。

ここがポイント

① 気づきから生まれる参加の連鎖

それぞれの取組には、「参加」の可能性が無数にあります。
その可能性に気づけたことが、バザーを通じた参加の連鎖につながりました。

② 誰もが気軽に参加できる場

ふらっと立ち寄れる空間は、社会とつながりを持ちにくい方が外出するきっかけにつながります。
申し込みを不要にすることで参加のハードルが下がりました。

「好き」や「得意」が“出番”をつくる

「地域を元気にしたい!」「活動を活性化させたい!」という思いがありながらも、なかなか思うようにいかないことってありますよね。自分たちだけで解決できなくても、地域の人の「好き」や「得意」の力を借りることで活動が盛り上がるかも!

こんな
困りごと
ありませんか?

この居場所にもっと
いろいろな世代の人に
来てほしいなあ

居場所の活動者



活動がマンネリ化
している気がするなあ

居場所の活動者



私が作ったゲームを
誰かに楽しんで
もらいたいなあ

木工作品を作る
地域の人



その他にも

地域にはまだまだ“出番”がある

ひきこもりがちだった人たちが、よりよい支援員との関わりで、自分の好きや得意なことを通して自信をつけ、地域の活動でも自分の好きや得意なことを披露できる“出番”につながりました。

地域の方からの「ありがとう」や「助かった」など、嬉しい言葉が本人たちの自己肯定感を徐々に育んでいます。

本人たちの声

▶「好き」を活かしてクイズ大会

クイズやクロスワードを自分で作ることが好きです。それがきっかけとなり地域の居場所でクイズ大会を開催。その後も定期的にクイズコーナーを担当することに！

一人でクイズを考える楽しさだけでなく、参加者が喜んでくれることにやりがいを感じています。



▶「得意」なピアノを演奏

小さなころからピアノを弾くことが好きでした。それがきっかけとなり地域の居場所でピアノ演奏を披露することに！

参加者から大好評で、得意が認められたことが、私の自信につながっています。



▶「趣味」のe-スポーツを地域の高齢者と

趣味で楽しんでいたゲームがきっかけとなり高齢者の集まる居場所で操作方法を教えることに！

みんなでe-スポーツを楽しむ時間を共有でき、教える楽しさ、誰かに頼られる喜びを感じています。

e-スポーツ…コンピューターゲームなどを使ったスポーツ対戦競技



ここがポイント

① 身近なところにヒントがある

その人の「好き」や「得意」を知ることで活動の活性化につながりました。

② 相談の種をまく

活動の「困ったな」や「どうしようかな」を色々な人に話してみたことで新たな出番が生まれました。

その時の私の気持ちは次のページで・・・

たかひろです。



“居場所”につながる「楽しい」や「うれしい」

家にこもりがちであった たかひろさんの場合

約10年間、家にこもりがちであったたかひろさん。よりそい支援員とつながったことで、少しずつ外出ができるようになりました。就労も視野に入れ、自分の働き方を模索していたときのことです。手先の器用なたかひろさんはモノづくりに興味を持ち、木材で「チーズの板」というゲームを作成し支援員に見せてくれました。



その時、たかひろさんはこんな気持ちでした。

自分が作った木工ゲームで喜んでくれる人がいるなんて、以前は想像できませんでした。作ったゲームが難しくないかな？と心配でしたが、たくさんの方が楽しんでくれて嬉しい気持ちになりました。

子どもや高齢者など、遊ぶ人に合わせて作品を改良しています。設計図を考えている時も、納得いくものができた時も楽しい時間になっています。

地域の居場所に置きたいのだけど、購入できるかしら？



社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
参加支援部

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通り上ノ口上る梅湊町 83-1
(河原町通五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 4F
TEL (075)585-5761 FAX (075)354-8746